

# 中部日本ニュース

シネスコ版

No. 533

## 一、当世流忍法帖拝見

——千葉、三重、東京

戦国の昔、風の如く荒野を馳けめぐり、煙の如く現われ、また消える神出鬼没の「忍びの者」。この忍者、今はブラウン管からご挨拶。これが受けて、巷は忍者ブーム。当世流行の産業スパイも忍法帖の世話になっているかもしれない。そして子供の世界は尙更だ。スーパーマンへの憧憬は何時の時世も変わらないもの。忍者即ち自分のイメージでたちまわりもやる。それが親達の心配でもある。

千葉県野田市に接骨医を営む初見さんは文字通り「医は仁（忍？）術也」という、戸隠流忍法34代宗家。武芸十八番全てに通じて心身共に健全なものが真の忍者だという。

棒術から剣術等、全ての武芸に通じようとする人達で屋内はもちろん戸外で夜の夜中かじめぐる。戸隠流忍法はこのように後世にも残すそうだ。

一方忍術のメッカ、伊賀上野は伊賀流忍術発祥の地。ここでは、市唯一の観光資源「忍術」で賭けようと大変だ。パンフレットの発送から裏工作のある忍術屋敷を新築中。そして「忍術踊り」まであみだしている。

観光客には収入役自らが忍者に早変わり。黒装束でかせこうと、現代に生きる忍者は、市にとってかけがえのないもののようにうた。

## 一、吉展ちゃんはどこに

——あれから一年——

——埼玉、東京

さる三十八年三月二十一日夕方、東京都台東区入谷町の入谷南公園から村越吉展ちゃんが誘かいされてから一年、憎々しいテープの声を残した犯人はいまだつかまっていないのです。

警視庁はじまって以来という捜査本部。懸命の犯人の追及もむなしく厚い壁にぶつかり：一般からよせられた情報二万余件も現在では大部分が白。

母親の豊子さんは、わが子の無事を祈りつつ、犯人の自首を求めると共に「それが出来なければ子供だけでも返して欲しい……」と訴えているのです。

一年たっても吉展ちゃんを返そうとしない犯人は一体どこに居るのか、人間としての一片の良心があるならば、

今からでも遅くはない。

四月十七日、吉展ちゃんの五回目の誕生日までにはなんとか元気な姿をみせてもらいたいものです。